

2016 やまぐち未来の科学の夢絵画展で入賞されました

社会教育課
☎ 52-5813

12月4日（日）、山口県児童センターで一般財団法人山口県発明協会が主催する『2016 やまぐち未来の科学の夢絵画展』の表彰式が行われ、田布施町少年少女発明クラブの児童が優秀賞・佳作を受賞しました。

この絵画展は、「こんなものがあっていいな」という子どもたちの豊かな創造力を育てる展覧会です。県内小・中学校から 266 点の応募があり、その中から選ばれました。

優秀賞
倉橋 和希
(西小3年)



「スパイダーシート」
クモの糸を利用した伸縮シートで雨量を調節します。

優秀賞
中谷 歩美
(東小6年)



「動物と話せるヘッドホン」
ヘッドホンを付けて話すと、動物と話することができます。

佳作
中谷 来美
(東小4年)



「ゆめのつづきマクラ」
好きな夢の続きが見れるマクラです。

地域の力を学校に

ともに

「思い」をつなぐ

田布施町立麻郷小学校
教頭 富士本 武明

本校は、本年度からコミュニケーション・スクールの指定を受けました。「地域に開かれた学校」をめざして、「ともに育てる」「ともに創る」「ともに守る」をモットーに、日々の教育活動を進めています。

学校・家庭・地域が「ともに」歩んでいくためには、まずは互いの「思い」を知ることが大切です。そこで、10月に「たくましく明るさいっぱい麻郷小の子どもを育てるために」をテーマとした「熟議(※)」を行いました。会では活発な意見交換がなされ、それぞれの熱い「思い」を共有できたことが何よりも大きな収穫でした。

また、公民館と連携した取組も進めています。公民館ではたくさんの講座が開かれており、各講座の方々に作品提供を呼びかけたところ、「麻郷パッチワーク教室」の皆さま

が、たくさん作品を学校に持って来てくださりました。作品に込められた「思い」と、「子どもたちのために」という地域の方の「思い」にも触れ、子どもたちからは笑顔があふれていました。

本校の子どもたちは、このような温かい「思い」に支えられて成長しています。子どもに携わる人々が「ともに手を取り合い」、「思い」をつないでいく学校でありたいと考えています。

※熟議：保護者・教職員・地域住民が集まり、よりよい学校づくりに向けて「熟慮」と「協議」を重ねながら課題解決を目指す対話のこと。



▲地域の人の「思い」に触れる子どもたち

子どもの可能性を信じて
挑戦させること！
地域協育ネット研修会

12月8日（木）、放課後子ども教室関係者、学習支援ボランティアなどの皆さんを対象に、『地域協育ネット研修会』が開催されました。講師は、『井関にこにこクラブ』指導員の上野敦子先生で、子どもの可能性を信じて挑戦させる取組として、跳び箱や古典の朗読暗唱などを取り入れたり、大工さんによる「カンナがけ」を体験させるなどのユニークな取組を通じて、子どもたちの主体性を引き出す取組を展開しています。参加された皆さんからは、「子どもたちの能力を限定せず、できると信じて実行したい」、「児童クラブに地域が関わっていく新しい発想である」などの感想がありました。

今後は、上野先生のお話を生かし、放課後教育支援活動のさらなる発展を目指していきたいと思えます。